

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	早稲田大学
整理番号	B - I - 6
事 業 名	早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p>交流プログラムの枠組みについては、多数の中から厳選された優秀な学生と名門大学学生との共同学習・研究となっており、将来グローバルに活躍できる人材の輩出に資するものとなっている。</p> <p>質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成については、相手大学と十分な協議・調整の下、合同推進会議及び個別開催の会議等を通じて、質の保証を図っている。</p> <p>外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備については、GLFP(Global Leadership Fellows Program)担当職員を配置し、受け入れた学生にキャンパス至近の寮を提供するなど、適切な環境が整備されている。</p> <p>事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及については、大学の国際化戦略と整合性を有した取組であり、また、大学のウェブサイトを中心に、必要な情報の公開、成果の発信が行われている。</p> <p>目標の達成状況については、事業計画に沿って実施され、一定の外国語力スタンダードをクリアした学生数、受入学生数、派遣学生数は、目標を達成している。</p> <p>派遣、受入の対象となる学生数は、大学の規模からすると非常に少ないが、「全学共通副専攻グローバル・リーダーシップ学」を全学に公開することで、学生の英語力の底上げに貢献している。当該講座の履修者数は 2,000 人にのぼり、大きな成果と言える。</p> <p>一方で、参加学生の学部（専攻分野）が特定の学部に偏り、特に理工系学部からの参加が極めて少なかった。グローバル・リーダーには文理横断的な素養が求められることから、選抜された参加学生に一定数の理工系学生が含まれることが重要であり、今後はそのような学生が参加しやすいプログラム作りの工夫が望まれる。</p>